

笑顔で働ける 会社をめざして

精密板金加工を中心に幅広い分野の
金属加工を手掛ける梅田工業。
現社長の梅田英鑑氏は、
先代が開発した生産管理システムを生かし、
業務の効率化と
より良い職場環境づくりに力を注いでいる。
そこにはどのような思いがあるのか――。



梅田工業株式会社
代表取締役社長
梅田英鑑
うめだ ひでのり

技術力と 生産管理システムを生かして

昭和二二年創業の梅田工業は、
半導体や車載関連製品などの分野
において多種多様な金属加工を手
掛ける。顧客のニーズに細やかに

対応するオーダーメイドの短納
期・小ロット生産に特化してきた
結果、現在は月平均五〇〇〇件、
四万点以上の製品を受注し、九〇
%以上のリピート率を誇る。これ
を可能にしたのは、二代目社長の
耀敬氏が独自に開発した生産管理

システムによるところが大きい。
同社は平成七年より、この生産
管理システムの運用を始めた。受
注や製造の進捗状況、資材在庫、
作業負荷など業務に関する情報を
集約し、状況が一目で分かるよう
に表やグラフで表示できるので、

当時としては大変画期的だった。
それらの情報に基づいて生産管
理、製造指示、外注管理、出荷管
理を行う。これにより、他社に先
駆けて、いち早く短納期・小ロッ
ト生産を可能にした。
現在、三代目社長を務める英鑑

氏は、自社の強みをこう語る。

「父が開発したシステムを生か
し、受注から一週間以内の納品が
求められる特急製品に日常的に対
応しながら、令和三年には残業時
間を月平均一〇時間以内に抑える
ことができました」

短納期と残業時間の削減を両立
させた背景には、職場環境改善へ
の並々ならぬ思いがあった。

無駄を減らして効率化を推進

同業他社での修業を終えて梅田
工業に入社したのは平成一七年。
他社での経験を踏まえて自分なり
に考えながら仕事をする中で、社
長である父とは衝突を繰り返し返
した。徐々に鬱憤をため込んでい
った梅田氏は、あるとき、とうと
う会社を飛び出した。家業と同じ
機械加工関連の会社への就職を希
望し、六〇社以上の面接を受けた
ものの、すべて不採用。ついに貯
金が底を突き「仕事を選んでい
る場合ではない」と訪問販売をはじ

め、さまざまな仕事に就いた。こ
の間に長時間労働を経験し、その
大変さが身に染みた。そんな生活
を送ること二年。「戻ってこない
か」との連絡を受け、梅田工業に
復帰した。
復帰直後に言い渡されたのは、
インドネシア工場勤務だった。二
年間で現地でのビジネスの足掛か

りをつかみかけたところで、先代
からの命で平成二五年に帰国し、
常務取締役就任。改めて社内を
見渡すと、どんよりとした空気が
漂っているのに気がついた。多品
種少量生産と短納期が業界の主流
となる中で、残業が常態化し、
社員は皆一様に疲れた顔をしてい
た。そのとき梅田氏の頭をよぎっ

たのは、子供の頃の楽しい思い
出。会社を訪れた自分を社員の皆
が笑顔で迎え入れ、遊んでくれた
情景だった。そのギャップに愕然
とした。「もつと明るく、笑顔で
働ける会社になりたい」。効率化の
推進を決意した。

まずは各部門の業務の見直しを
行った。また、職場のレイアウト
を変更して無駄な動きを減らし、
いくつかの部署を統合して生産工
程をスリム化。小さな改善の積み
重ねにより、生産スピードを徐々
に上げていった。社員の努力にも
助けられ、やがて業務は効率良く
回るようになり、残業時間も数年
のうちに劇的に改善。気づけば社
員同士の会話も増え、社内の空気
が明るくなってきた。その結果、
営業利益にも改善が見られるよう
になったのだ。

より良い職場環境を

平成二六年に社長に就任した梅
田氏は、その後も「職場環境をよ



熟練の技術と
最新鋭の設備を生かし
多様なニーズに対応



社員のアイデアから生まれた
足踏み式消毒液スタンド
「Fumu Clean」。
容器のプッシュヘッドに触れずに
消毒できるため
病院・スーパー・飲食店などに
多数導入。耐久性に優れ、
組立式で高さ調節も可能

梅田工業株式会社

創業／昭和22年
所在地／埼玉県行田市持田2662
TEL／048-553-3191
資本金／5,000万円
従業員数／63名
事業内容／精密板金、機械加工、装置組立
<https://umedakk.co.jp/>

り良くしたい」と、さまざまに取
り組みを進めてきた。平成三〇年
に始めた毎朝三〇分の環境整備活
動も、その一つ。社員が二人一組
で整理整頓や掃除などを行い、社
内の環境を整備するというもの
だ。活動を通して、職場のムリ、
ムラ、ムダが解消されるだけでな
く、社員同士のコミュニケーション
が深まり、仕事に良い効果をも
たらしている。

埼玉県健康経営実践事業所として
認定されている。
「ワーク・ライフ・バランスを実
現しつつ、お客様に喜んでいただ
ける製品をつくる。そうしてもた
らされた利益を、より良い職場環
境づくりに活用する。そんなサイ
クルを回していきたいですね」
梅田氏は現在、さらなる業務の
効率化やスピード対応を意図し
て、デジタル化を推進している。
その一環として全社員にタブレッ
トを支給し、その活用を試みてい
る最中だ。今では日常の報告・連
絡・相談においてもタブレットの

活用が進んでいる。
「今後は社内でのコミュニケー
ションに用いるだけでなく、発注
書や工程指示書などもタブレット
で閲覧し、情報を共有する組み
に変えたいと考えています。働き
やすく、社員がより成長できる環
境を整えていきたいですね」
そう語る梅田氏は、近年、新卒
採用に力を入れ、社内の若返りを
図っている。採用した若い人材の
自由で斬新な発想を取り入れて、
自社オリジナル製品の開発をして
いく考えだ。
(一般社団法人日本道経会埼玉互敬塾支部長)



素材で世界を変える

私たちは、環境配慮へ大きく強く舵を切りました。

「素材で世界を変える。」

あなたの1番近くにあるものは何ですか？

いつも肌に触れているものは何ですか？

それは、「繊維」です。

1番近いからこそ、あなたにやさしくしたい

あなたの過ごす環境にやさしくしたい



長谷虎紡績株式会社

〒501-6236 岐阜県羽島市江吉良町 197-1